

電子納品提出後のデータ管理は？

電子納品の開始から6年が過ぎました。

現在は全ての業務で電子納品が義務付けられ、工事の電子納品対象範囲も拡大されています。

企業内には、業務受託・工事受注件数の数だけ電子成果品が蓄積されていますが、成果品提出後のデータ管理は個人任せになっていませんか。



電子成果品の利活用～情報資産活用の推進に向けて～

自らの電子納品要領（案）に基づいた電子成果品を管理する発注者と異なり、各発注機関が定めた各種要領（案）に対応する電子成果品を作成する民間企業では、そのデータ管理は煩雑です。

また電子データの量は、これまでの概念を超える勢いで蓄積されており、システム担当者の悩みの種と聞いています。

ヤマイチテクノは、官公庁で培った電子納品保管管理システムのノウハウを基に、民間企業向けの電子納品データ保管管理システムを開発しました。

電子納品形式データと一般データの混在管理

管理情報（XML）のある電子納品データと、任意のフォルダ階層とファイル名で構成された一般データの管理が可能です。

ツリー型データ階層と連動するビューで、データ内容の確認が容易です。

全文検索機能により、目的のデータを瞬時に探し出します。

スタンドアロン型から、クライアントサーバ型、WEBシステム型への段階的拡張が出来ます。

詳しくは、会場で説明員までお問い合わせください。